

# 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に 対応する職員のためのサポートガイド Vol. 2 -経験知の共有-



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

# はじめに

**COVID-19 対応においては、未だ有効なワクチンや治療薬は開発されておらず、当面はどの地域でも感染の拡大、減衰を繰り返す可能性があります。**

**この感染症に直面した病院では、これまでにない苦労を経験し、工夫をこらして対応しました。今後、誰もが当事者として巻き込まれる懸念があり、すでに対応した病院の経験知を今共有していくことで次の流行の備えになります。**

**もちろん、地域、病院、個人の事情によって具体的な対応は異なりますが、基本的な考え方、手法は共通するものがあります。**

**主に精神保健・心理社会的支援（MHPSS: Mental Health and Psychosocial Support<sup>[1]</sup>）の観点から共有すべきポイントと具体例を示しましたので参考にしてください。**

---

[1] MHPSS は、「心理的・社会的な安定を支え、メンタルヘルス上の疾病を予防・治療することを目的としたあらゆるタイプの支援」と定義されている（国連を中心とした機関間常設委員会 IASC（2007））。災害や紛争等の緊急時、その渦中にある人のメンタルヘルスと心の安定を守るためには多層的かつ部門横断的な支援活動が必要なが強調されている。

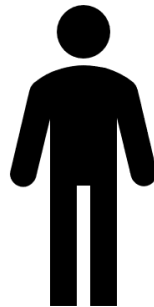
# 1. COVID-19 対応に必要なこと

COVID-19 対応において、職員には COVID-19 対応特有のストレスがあります。

そして、困難な状況で働く職員がこころの健康を維持するためには、職員本人と、組織としての対応が必要となってきます。

※詳細は、「COVID-19 対応職員サポートガイド ([http://www.jrc.or.jp/activity/saigai/news/200330\\_006139.html](http://www.jrc.or.jp/activity/saigai/news/200330_006139.html)) 」をご覧ください。

職員



病院

©日本赤十字社

## ・職務遂行基盤（スキル、知識、安全）

職務を安定的にこなせていけるという感覚が、自己効力感や仕事の意味感を支える基盤です。

COVID-19 対応において、前例のない業務に不安を感じるスタッフも多いため、身体的安全の確保や職務遂行に必要な技能の補強や環境整備は不可欠です。

## ・個人のセルフケア

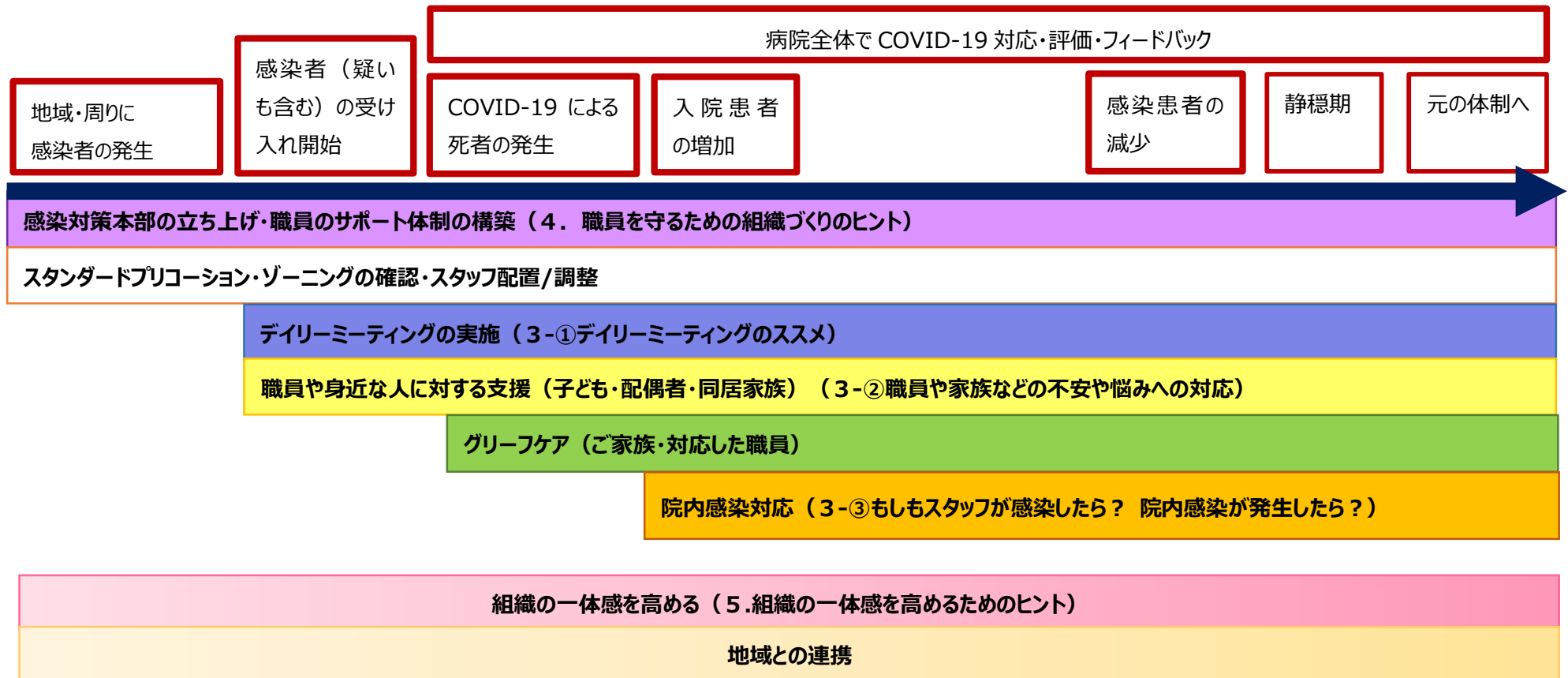
いわゆるストレスマネジメント能力。ストレスのかかる労働環境でいかに対処できるか、押し寄せる不安をどう受け流すかが重要となります。

個人のセルフケアや同僚からのサポートだけでは限界があり、組織からのサポートが極めて重要です。職員のメンタルヘルスに組織のサポートが有効であることは、東日本大震災や SARS の時にも報告されています。

本ガイドが中心となって説明する項目に関しては、組織によって必要な部分、そうでない部分もあると思いますが、自施設に必要な部分をピックアップして、参考にいただければ幸いです。

## 2. 感染ステージ別にみる職員に必要なサポート

感染ステージに応じて必要とされる職員に対するサポートはステージ別に以下のように発生すると考えられます（ステージは、あくまでも例です）。自施設の置かれている状況を分析し、ステージに応じたサポートの検討に役立ててください。



ガイドの活用方法：ここから先はテーマごとの PDF になっています。病院の状況や必要に応じて参考にしてください。

### **3. 具体的な対応のヒント**

- ①デイリーミーティングのススメ**
- ②職員や家族などの不安や悩みへの対応**
- ③もしもスタッフが感染したら？ 院内感染が発生したら？**

### **4. 職員を守るための組織づくりのヒント**

### **5. 組織の一体感を高めるためのヒント**

---

## おわりに

各地域・病院では、これまでに経験したことのない困難な状況が続いていることと思われます。皆様の対応一つひとつが貴重な財産であり、精神保健・心理社会的支援（MHPSS）の観点から、経験知の一部をお示しました。

このガイドが、今後の COVID-19 対応の一助、かつ COVID-19 克服へのエールとなれば幸いです。

# 参考文献

- ・金吉晴・外傷ストレス関連障害に関する研究会（編）（2001,2011）「心的トラウマの理解とケア 第2版」じほう
- ・Billings, Jo., et al. (2020). Supporting Hospital Staff During COVID-19: Early Interventions. Occupational Medicine.  
（Available at: <https://academic.oup.com/occmed/advance-article/doi/10.1093/occmed/kqaa098/5843740>  
Accessed: 2020/06/22)
- ・Inter-Agency Standing Committee（2007）災害・紛争等緊急時における 精神保健・心理社会的支援 に関する IASC ガイドライン
- ・Inter-Agency Standing Committee（2020）ブリーフィング・ノート（暫定版）新型コロナウイルス 流行時のこころのケア Version 1.5  
（[https://www.ajcp.info/heart311/wp-content/uploads/2020/03/IASC\\_BN-on-COVID-MHPSS1.5\\_Japanese\\_0323.pdf](https://www.ajcp.info/heart311/wp-content/uploads/2020/03/IASC_BN-on-COVID-MHPSS1.5_Japanese_0323.pdf)）
- ・セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン：「誰もができる、緊急下の子どものこころのケア『子どものための心理的応急処置』」  
  
（<https://www.savechildren.or.jp/lp/pfa/>）
- ・日本赤十字社（2020）「新型コロナウイルス（COVID-19）に対応する職員のためのサポートガイド」（2020年3月25日初版 第2版）  
  
（[http://www.jrc.or.jp/activity/saigai/news/200330\\_006139.html](http://www.jrc.or.jp/activity/saigai/news/200330_006139.html)）
- ・日本赤十字社（2020）「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」（2020年3月26日初版）  
  
（[http://www.jrc.or.jp/activity/saigai/news/200326\\_006124.html](http://www.jrc.or.jp/activity/saigai/news/200326_006124.html)）

# 作成にあたってご協力いただいた方々

【監修】	諏訪赤十字病院	森光 玲雄
	国際赤十字・赤新月社連盟心理社会センター登録専門家	
【執筆協力】	日本赤十字社医療センター	秋山 恵子
		関 真由美
		宮本 教子
	伊勢赤十字病院	中井 茉里
	神戸赤十字病院	村上 典子
	本社 医療事業推進本部	宮原 保之
		大和田 恭子
		飯田 武志
	事業局	堀 乙彦
		武口 真里花
		佐藤 展章
		長崎 麻衣子
		矢田 結
	災害医療統括監	丸山 嘉一



新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対応する職員のためのサポートガイド Vol.2 —経験知の共有—

発行年月日 2020年9月11日

発行 日本赤十字社新型コロナウイルス感染症対策本部 ©日本赤十字社 2020

本ガイドの内容について、許可なく掲載・改変・トレース・翻訳を禁止します。

引用、印刷物や電子データでの配布等でご活用の際には、出典を明記してください。